

株式会社トーア紡コーポレーション

# 令和4年12月期 決算説明資料

(令和4年1月1日～令和4年12月31日)

令和5年2月15日

**TOABO**

## 令和4年12月期決算 概要

売上高 **17,000百万円**（前年同期比+9.5%）

営業利益 **516百万円**（前年同期比+43.9%）

経常利益 **528百万円**（前年同期比+26.5%）

親会社株主に帰属する

当期純利益 **269百万円**（前年同期比+4.0%）



中期経営計画（令和4年度～令和6年度）の  
初年度となる当期は売上高、各利益とも**目標を達成**

## 目次

▶ トーア紡グループの企業理念	P. 3
▶ 令和4年12月期 通期業績	P. 4 ~ 16
▶ 令和5年12月期 業績予想	P.17 ~ 18
▶ 株主還元	P.19
▶ トーア紡グループのSDGs	P.20 ~ 25
▶ トピックス	P.26
▶ 免責事項	P.27

## トーア紡グループの企業理念

### 経営理念

#### 【暮らしと社会の明日を紡ぐ】

当社グループは創業者の訓示である『顧客満足』『重点主義』『公平性』を脈々と受け継ぎ、人々そして暮らしの「アメニティ＝快適性・ここちよさ」を追求する『暮らしと社会の明日を紡ぐ』企業グループであり続けます。

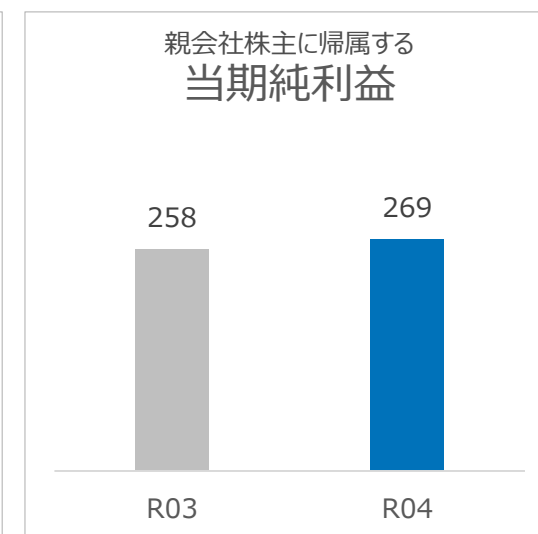
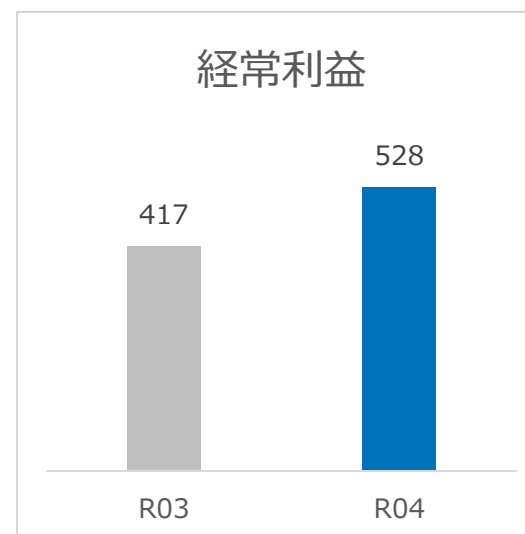
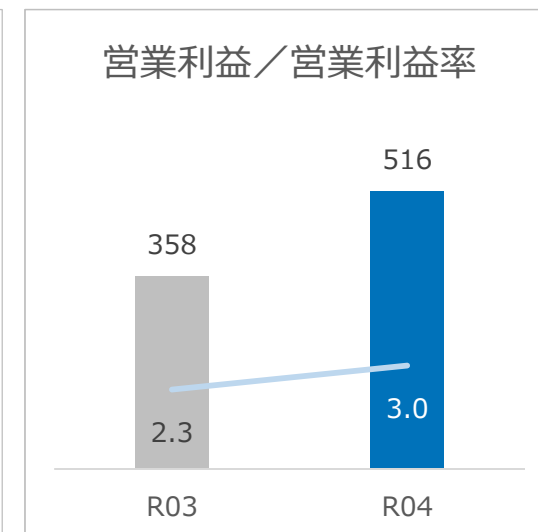
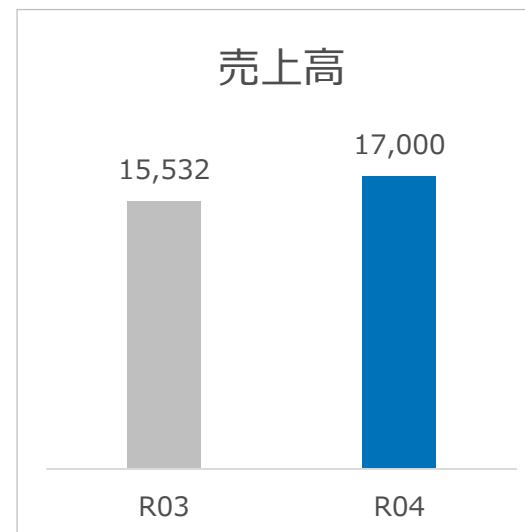
### 経営の基本方針

- ▶ トーア紡クオリティの追求と新しい価値の創造、環境負荷の低減に積極的に取り組むことを通じて、モノづくりの伝統を未来へつなげる。
- ▶ 時代に必要とされる新たな価値を創造することで社会に貢献し、求められる企業集団として成長、発展し続ける。
- ▶ 個性の尊重と和を重んじ、公正・公平な機会と活力ある職場環境を構築し積極的に挑戦する企業集団であり続ける。

# 令和4年12月期 通期業績 連結決算概要 (金額：百万円)



	実績		前年同期比 増減率
	令和3年 12月期	令和4年 12月期	
売上高	15,532	<b>17,000</b>	9.5%
営業利益	358	<b>516</b>	43.9%
営業利益率	2.3%	<b>3.0%</b>	0.7ポイント
経常利益	417	<b>528</b>	26.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	258	<b>269</b>	4.0%



# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)

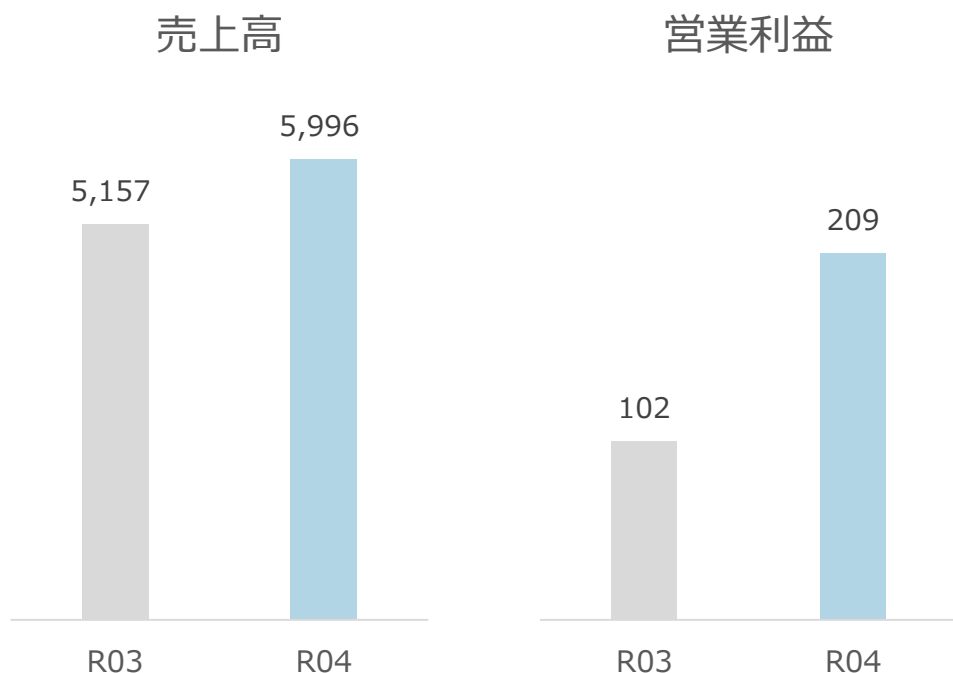


	実績						前年同期比 増減率		
	令和3年12月期			令和4年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	5,157	102	2.0%	<b>5,996</b>	<b>209</b>	<b>3.5%</b>	16.3%	104.4%	1.5ポイント
インテリア 産業資材事業	5,863	90	1.5%	<b>6,306</b>	<b>67</b>	<b>1.1%</b>	7.6%	△25.1%	△0.4ポイント
エレクトロ ニクス事業	2,298	46	2.0%	<b>2,335</b>	<b>76</b>	<b>3.3%</b>	1.6%	62.7%	1.3ポイント
ファイン ケミカル事業	1,022	44	4.4%	<b>1,176</b>	<b>93</b>	<b>7.9%</b>	15.1%	107.4%	3.5ポイント
不動産事業	890	544	61.1%	<b>901</b>	<b>543</b>	<b>60.3%</b>	1.2%	△0.1%	△0.8ポイント
その他	300	△38	—	<b>285</b>	△49	—	△5.0%	—	—
調整額 (販管費等)	—	△430	—	—	△424	—	—	—	—
合計	15,532	358	2.3%	<b>17,000</b>	<b>516</b>	<b>3.0%</b>	9.5%	43.9%	0.7ポイント

# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)



衣料事業		
売上高	5,996百万円	+16.3%
営業利益	209百万円	+104.4%
営業利益率	3.5%	+1.5ポイント



## 業績概要

### 毛糸部門

- ▶ 織糸の需要が国内産地で回復し増収

### ユニフォーム部門

- ▶ スクール向け素材及びニット製品は、学生服メーカーの新入学生向け商品の生産が旺盛なため、素材の受注が好調に推移し増収
- ▶ 官公庁向けは調達数量減少の影響を受け減収
- ▶ 一般企業向けは需要回復の兆しが見え増収

### テキスタイル部門

- ▶ 主要取引先の在庫調整が解消されたことで、受注が順調に推移し増収

### 毛糸製造販売を主体とする中国現地法人

- ▶ 日本市場向けの受注が回復したため増収

## 今後の取り組み

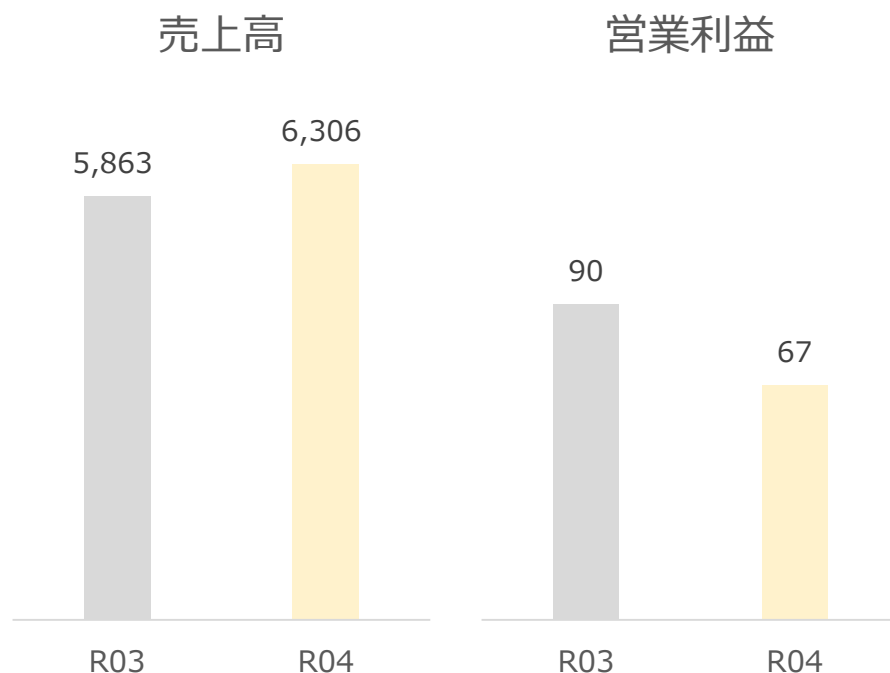
- ・ 適地生産体制の見直しおよび生産性向上によるコスト低減
- ・ SDGsへの取り組みや高付加価値素材の開発を強化し収益性を改善
- ・ スクール向け商材のシェア拡大に注力

# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)

# TOABO

## インテリア産業資材事業

売上高	6,306百万円	+7.6%
営業利益	67百万円	△25.1%
営業利益率	1.1%	△0.4ポイント



## 業績概要

### ポリプロファイバー部門

- ▶ 自動車内装材用原綿は引き続き減産も、カーペット用原綿は展示会が規模を縮小しながらも開催され増収増益

### カーペット部門

- ▶ ホテル・オフィス用途の生産が減るも、一般資材やダストコントロール、展示会・イベント用の需要が回復し増収、一方、急激な原材料・燃料・副資材の値上げにより減益

### 特殊繊維部門

- ▶ 金属繊維は自動車生産台数減少の影響で減産となるもカーボン繊維は建設機械向けが活況となり微増収

### 自動車内装材部門

- ▶ 半導体・部品不足の状況はあるも受注商品への影響は大きくなく、原材料価格の高騰を価格転嫁できたことなどで増収

### 不織布部門

- ▶ 土木、寝装関連は前年並み、防草、緑化関連は順調に推移するも、原材料・燃料・資材の急激な高騰で増収減益

### 自動車内装材製造販売の中国現地法人

- ▶ 半導体不足と上海ロックダウンの影響を受け大きく生産効率を落とし減収減益

## 今後の取り組み

- ・ 国内工場、中国とも生産性向上と新規分野開拓のための設備投資を進め、効率的な稼働とコストの安定化を図る



# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)

# TOABO

## エレクトロニクス事業

売上高	2,335百万円	+1.6%
営業利益	76百万円	+62.7%
営業利益率	3.3%	+1.3ポイント

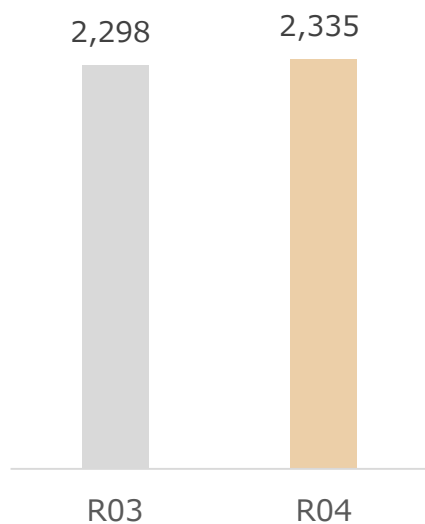
## 業績概要

- ▶ 主力の電動工具向けコントローラーは、後半にウクライナ侵攻の長期化を受け受注が減少するも、年間では受注残の解消が順調に進んだことで売上が堅調に推移
- ▶ 半導体デバイスは、半導体製造装置や衛生用品向けの受注が年間を通して好調に推移

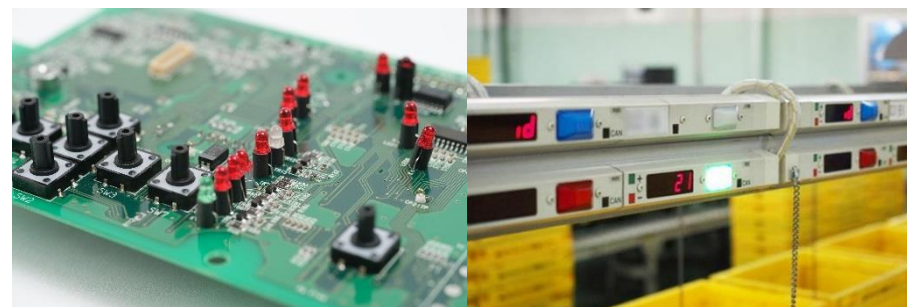
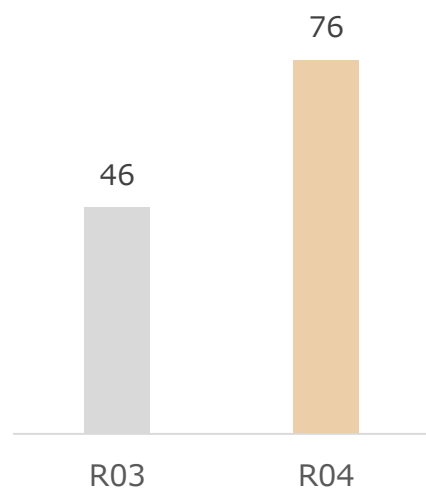
## 今後の取り組み

- ・ 予想される景気後退の影響による減速への対処
- ・ DX技術を活用し、既存製品の自動化、省力化による生産効率向上を進め収益を確保
- ・ 今後成長が見込める減速機や電子棚札の販売を一層強化
- ・ 新規分野としてフェムテック分野への開発営業を積極的に推進

売上高



営業利益



# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)



## ファインケミカル事業

売上高	1,176百万円	+15.1%
営業利益	93百万円	+107.4%
営業利益率	7.9%	+3.5ポイント

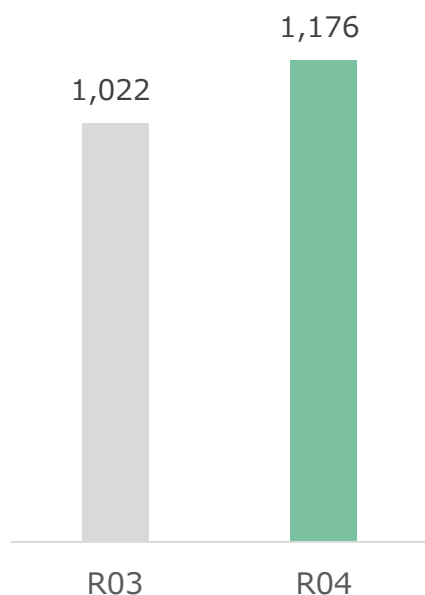
## 業績概要

- ▶ 電子材料分野は、半導体向けのプロセス材料の受注増で増収
- ▶ ヘルスケア分野は、ジェネリック医薬品向けの需要が堅調に推移し増収

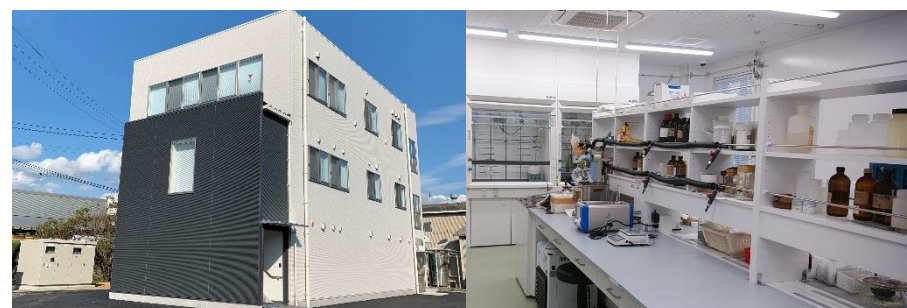
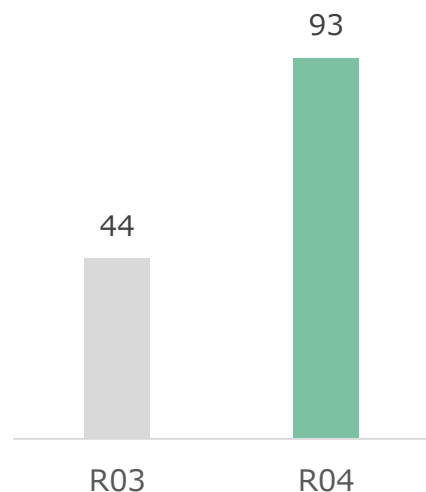
## 今後の取り組み

- ・ 電子材料が世界的な調整局面に入るも、中長期的には成長分野であると認識
- ・ 引き続き生産能力増強と新規材料のプロセス開発に力を入れ、業容拡大と収益力向上を推進

売上高



営業利益



# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)



不動産事業		
売上高	901百万円	+1.2%
営業利益	543百万円	△0.1%
営業利益率	60.3%	△0.8ポイント

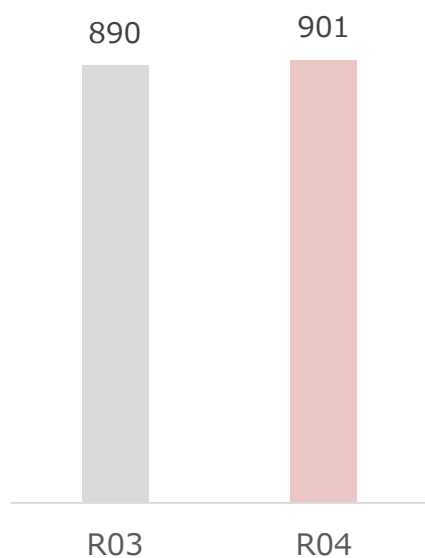
## 業績概要

- ▶ 新規テナントが入居したことに加え、新たな事務所賃貸も寄与し増収
- ▶ 光熱費の高騰により微減益

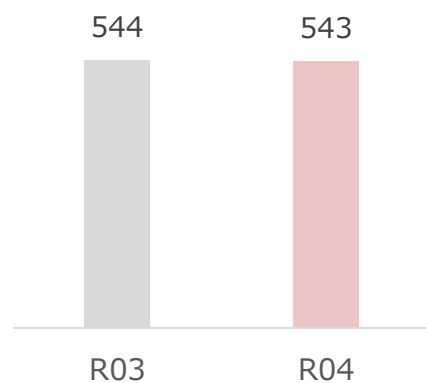
## 今後の取り組み

- ・ 商業施設、オフィスビル等の賃貸物件の付加価値を高め、稼働率の向上を図り、安定収益の確保に努める

売上高



営業利益



# 令和4年12月期 通期業績 セグメント別概要 (金額：百万円)



その他の事業		
売上高	285百万円	△5.0%
営業損失	49百万円	前年同期は 営業損失38百万円
営業利益率	—	前年同期も利益なし

## 業績概要

### 自動車教習事業

- ▶ 二輪車・大型特殊・フォークリフトは堅調に推移するも、主力の普通車が低調で減収

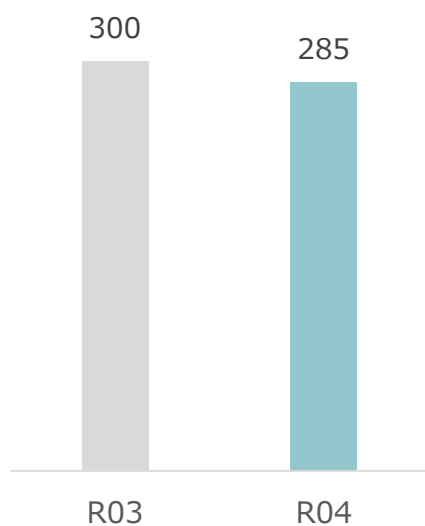
### ヘルスケア事業

- ▶ スキンケア化粧品と健康食品の自社ブランド（ONU）を立ち上げ販売を開始するも、予定していた海外免税店での化粧品販売が延期になり低調

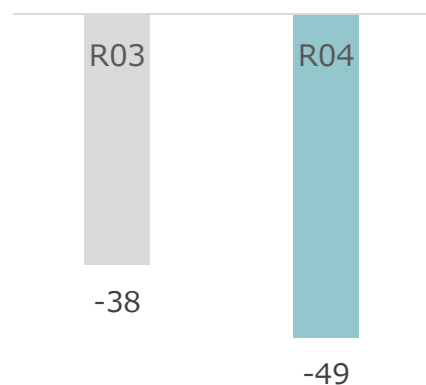
### その他

- ▶ 洋菓子店、カンボジア現地法人は堅調に推移

売上高



営業利益



# 令和4年12月期 通期業績 中期経営計画との比較



(金額：百万円)

	計画	実績		計画	業績予想	計画
	令和4年 12月期	令和4年 12月期	達成率	令和5年 12月期	令和5年 12月期	令和6年 12月期
売上高	16,000	<b>17,000</b>	<b>106.3%</b>	16,500	17,200	17,000
営業利益	450	<b>516</b>	<b>114.8%</b>	550	550	630
経常利益	380	<b>528</b>	<b>139.0%</b>	480	480	550
親会社株主に帰属する 当期純利益	220	<b>269</b>	<b>122.4%</b>	280	280	330

**中期経営計画（令和4年～令和6年）の初年度目標を達成**

# 令和4年12月期 通期業績 中期経営計画との比較

(金額：百万円)

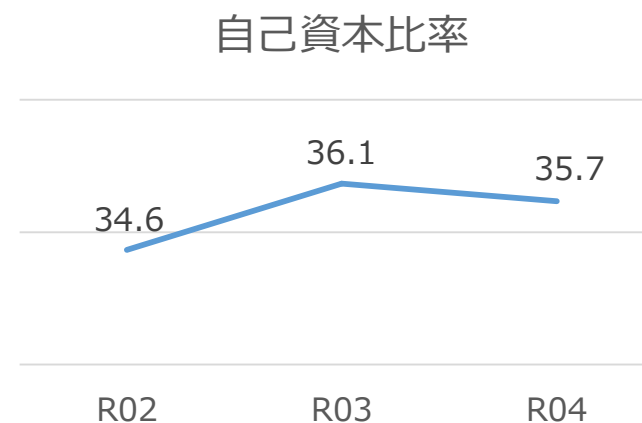
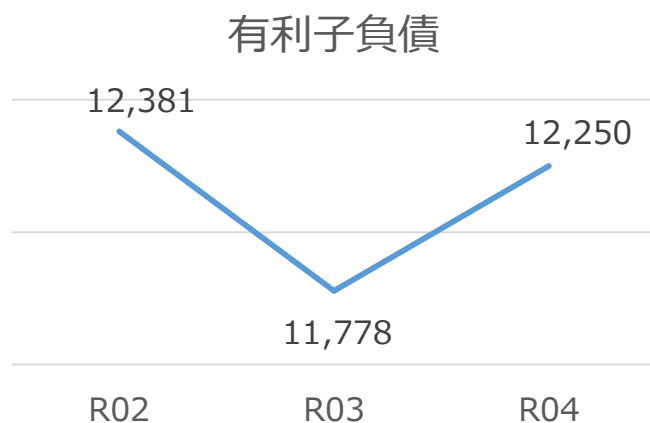


	中期経営計画			実績			増減		
	令和4年12月期			令和4年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	5,350	120	2.2%	5,996	209	3.5%	646	89	1.3ポイント
インテリア 産業資材事業	6,250	160	2.6%	6,306	67	1.1%	56	△93	△1.5ポイント
エレクトロ ニクス事業	2,120	52	2.5%	2,335	76	3.3%	215	24	0.8ポイント
ファイン ケミカル事業	1,000	70	7.0%	1,176	93	7.9%	176	23	0.9ポイント
不動産事業	900	525	58.3%	901	543	60.3%	1	18	2.0ポイント
その他	380	3	0.8%	285	△49	—	△95	△52	—
調整額 (販管費等)	—	△480	—	—	△424	—	—	56	—
合計	16,000	450	2.8%	17,000	516	3.0%	1,000	66	0.2ポイント

# 令和4年12月期 通期業績 財務主要指標 (金額：百万円)



	令和2年12月期 実績	令和3年12月期 実績	令和4年12月期 実績
総資産	31,248	31,488	32,911
純資産	10,822	11,368	11,746
有利子負債	12,381	11,778	12,250
ネットD/Eレシオ	89.9%	81.0%	83.3%
自己資本比率	34.6%	36.1%	35.7%



# 令和4年12月期 通期業績 連結貸借対照表サマリー

(金額：百万円)

連結貸借対照表	令和3年12月	令和4年12月	増減
流動資産	9,733	10,231	498
固定資産	21,755	22,679	924
資産合計	31,488	32,911	1,423
流動負債	6,603	8,533	1,929
固定負債	13,515	12,631	△884
負債合計	20,119	21,164	1,045
株主資本	10,533	10,652	119
その他包括利益累計額	826	1,085	258
非支配株主持分	8	8	0
純資産合計	11,368	11,746	378
負債・純資産合計	31,488	32,911	1,423
(自己資本比率)	36.1%	35.7%	△0.4 <sup>ポイント</sup>



# 令和4年12月期 通期業績 連結キャッシュフロー サマリー

# TOABO

(金額：百万円)

	令和3年12月累計	令和4年12月累計	
純利益	379	468	<u>営業キャッシュフロー</u> 主な増加要因： 仕入債務の増加 196百万円 売上債権の減少 303百万円 主な減少要因： たな卸資産の増加 701百万円
減価償却費	356	373	
運転資金	△32	△201	
その他	△39	△148	
営業CF	664	492	
設備投資	△298	△998	<u>投資キャッシュフロー</u> 主な減少要因： 有形固定資産の取得による支出 995百万円
その他	81	△132	
投資CF	△217	△1,130	
長・短期借入金増減	△552	472	<u>財務キャッシュフロー</u> 主な増加要因： 長期借入による収入 3,050百万円 短期借入金の純増加額 1,280百万円 主な減少要因： 長期借入金の返済による支出 3,856百万円
社債増減	△50	0	
配当金	△89	△133	
その他	△1	△3	
財務CF	△692	336	
CF増減	△200	△275	

# 令和5年12月期 セグメント別業績予想 (金額：百万円)



	実績			業績予想			前年同期比 増減率		
	令和4年12月期			令和5年12月期			売上高	営業利益	営業利益率
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率			
衣料事業	5,996	209	3.5%	<b>6,000</b>	<b>170</b>	<b>2.8%</b>	4	△39	△0.7ポイント
インテリア 産業資材事業	6,306	67	1.1%	<b>6,400</b>	<b>160</b>	<b>2.5%</b>	94	93	1.4ポイント
エレクトロ ニクス事業	2,335	76	3.3%	<b>1,830</b>	<b>35</b>	<b>1.9%</b>	△505	△41	△1.4ポイント
ファイン ケミカル事業	1,176	93	7.9%	<b>1,280</b>	<b>100</b>	<b>7.8%</b>	104	7	△0.1ポイント
不動産事業	901	543	60.3%	<b>940</b>	<b>545</b>	<b>58.0%</b>	39	2	△2.3ポイント
その他	285	△49	—	<b>750</b>	<b>20</b>	<b>2.7%</b>	465	69	—
調整額 (販管費等)	—	△424	—	—	△480	—	—	△56	—
合計	17,000	516	3.0%	<b>17,200</b>	<b>550</b>	<b>3.2%</b>	200	34	0.2ポイント

# 令和5年12月期 セグメント別業績予想 中期経営計画との比較 (金額：百万円)

	中期経営計画			業績予想			増減		
	令和5年12月期			令和5年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	5,580	150	2.7%	<b>6,000</b>	<b>170</b>	<b>2.8%</b>	420	20	0.1ポイント
インテリア 産業資材事業	6,300	180	2.9%	<b>6,400</b>	<b>160</b>	<b>2.5%</b>	100	△20	△0.4ポイント
エレクトロ ニクス事業	2,130	55	2.6%	<b>1,830</b>	<b>35</b>	<b>1.9%</b>	△300	△20	△0.7ポイント
ファイン ケミカル事業	1,200	95	7.9%	<b>1,280</b>	<b>100</b>	<b>7.8%</b>	80	5	△0.1ポイント
不動産事業	910	545	59.9%	<b>940</b>	<b>545</b>	<b>58.0%</b>	30	0	△1.9ポイント
その他	380	25	6.6%	<b>750</b>	<b>20</b>	<b>2.7%</b>	370	△5	△3.9ポイント
調整額 (販管費等)	—	△500	—	—	△480	—	—	20	—
合計	16,500	550	3.3%	<b>17,200</b>	<b>550</b>	<b>3.2%</b>	700	0	△0.1ポイント

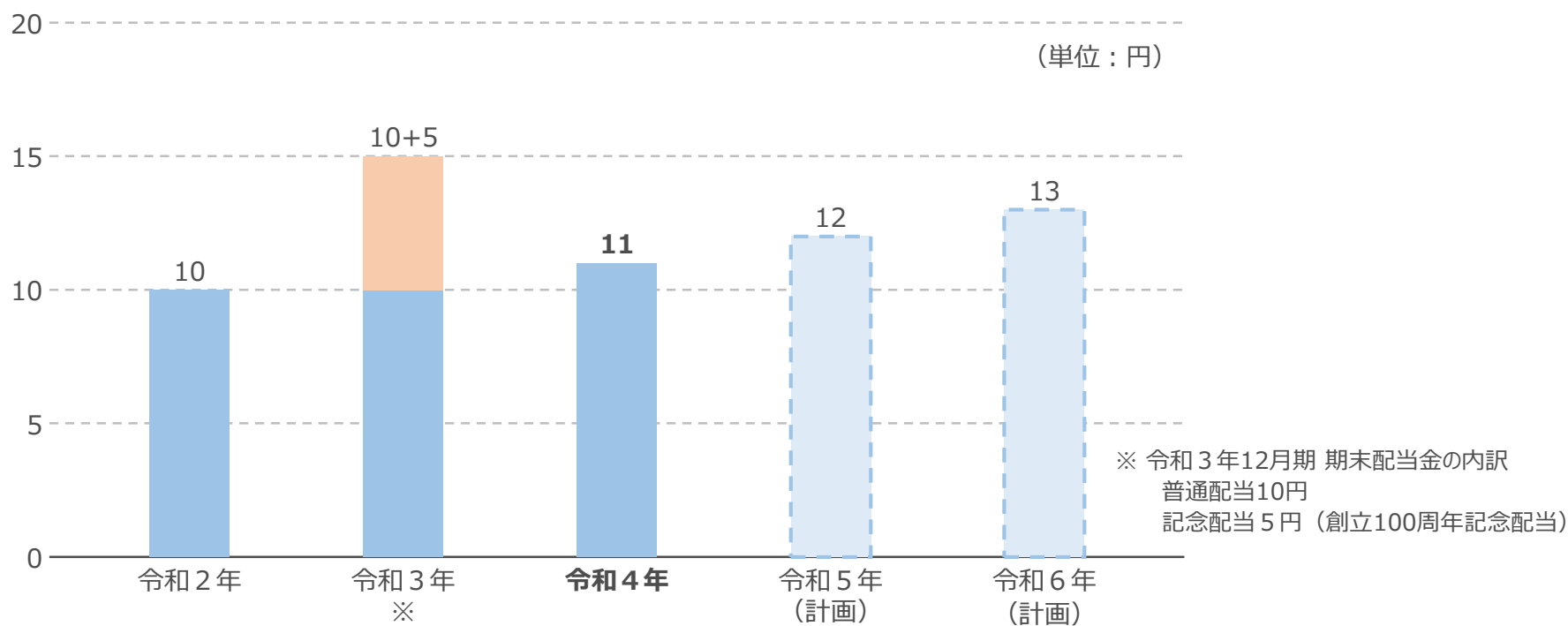
# 株主還元

## 考え方

- ▶ 成長投資、財務状況とキャッシュフローなどのバランスを総合的に勘案する
- ▶ 利益水準に応じて配当を引き上げていくこととし、配当性向35%を目安とする
- ▶ 安定的かつ継続的に実施する

## 1株あたり配当

令和4年12月期は、**中期経営計画通り1株あたり11円**の普通配当を実施



## 環境配慮の仕組みづくり

# GREEN WOOL

## VALUE CHAIN

～CSR、環境負荷低減と経済性の実現～

TOABO SOTO:

ケロン



### 尾州発の新たな環境基準の確立を目指して

東亜紡織(株)と(株)ソトーは、SDGsの達成に向けて『GREENWOOLバリューチェーン』を立ち上げました。

『CSR、環境負荷低減と経済性の実現』をミッションに定め、羊毛業界（衣料事業）のグローバルスタンダードの確立を目指し、運用を開始します。

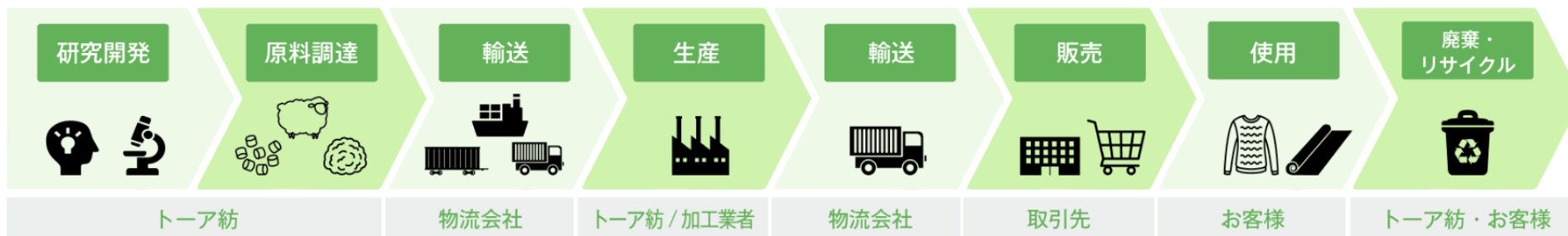
原料から生産、廃棄にいたるまでのバリューチェーンを構築し、CO2排出量などの環境負荷および社会的な責任に対する要件について定量化し、GREENWOOL INDEXとして新たな価値や利便性の高い効率的なシステムを構築してまいります。



### 2022年度取り組み状況

- ▶ バリューチェーン向けチェックリストの作成（環境関係、トレーサビリティ、品質管理等）
- ▶ INDEX（CO2排出量等）作成中
- ▶ カーボンフットプリント評価基準作成準備中

## 二酸化酸素総排出量算定への取り組みを開始



### 自社+サプライチェーンでのCO2総排出量の見える化 (算定基準、計算方法の確立)

2022年3月に環境省と経済産業省より発行された『サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (Ver.2.4)』に基づき温室効果ガス排出量を算定

## トア紡グループのSDGs

# TOABO

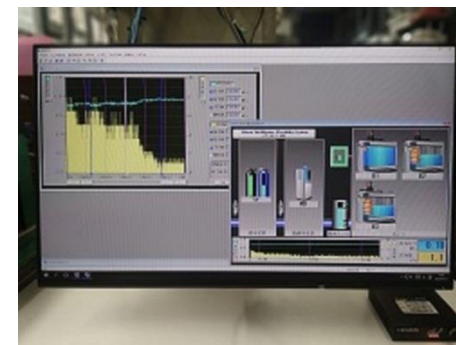
### 環境にやさしい企業活動

#### 2022年11月に天然ガス（LNG）の導入を開始

- ▶ 既設のLPG設備をLNG設備に移行
- ▶ 2022年12月末時点 天然ガスボイラーを導入中  
⇒ 完成後、重油ボイラーは廃止

#### 二酸化炭素排出量削減効果

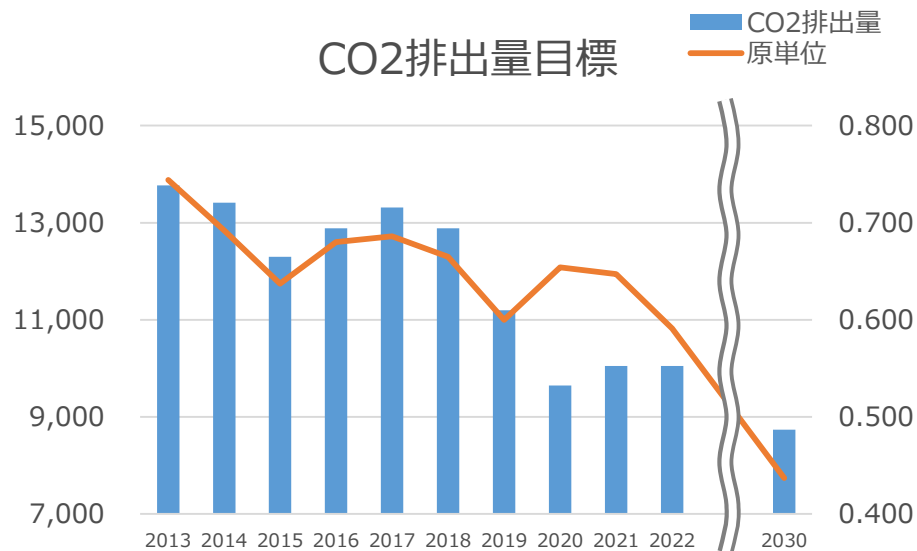
- ▶ 重油ボイラーと比較して30%の二酸化炭素排出量を削減



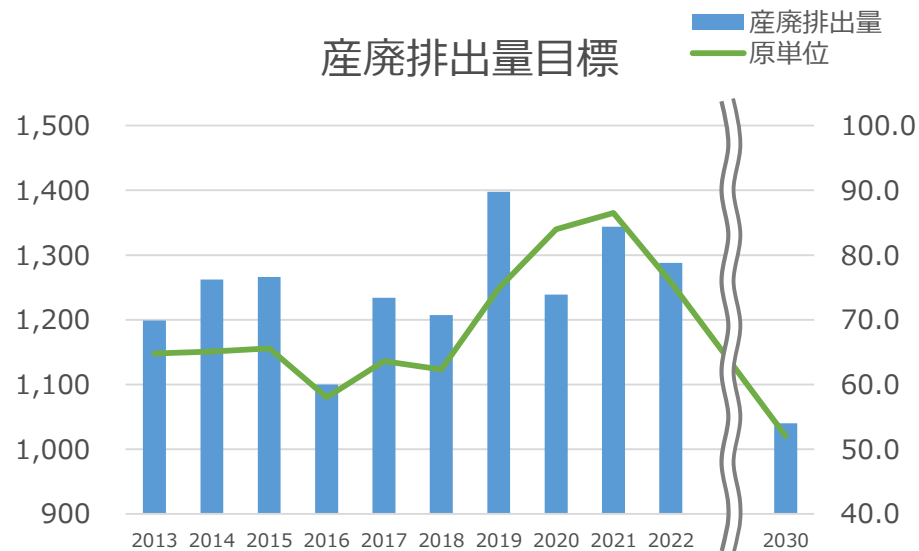
# トア紡グループのSDGs



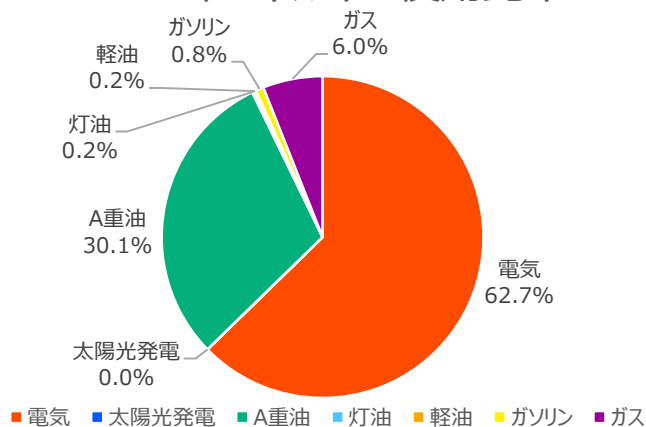
### CO2排出量目標



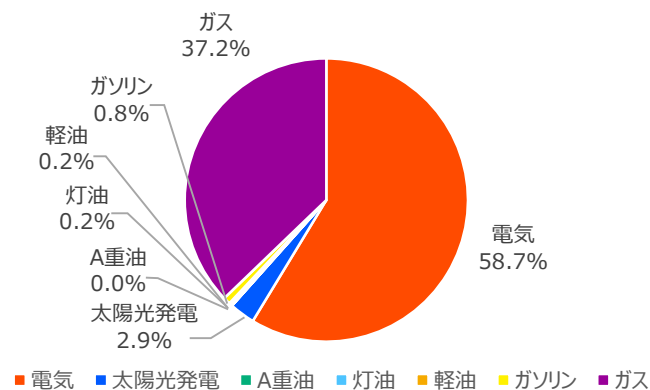
### 産廃排出量目標



### 2022年エネルギー使用比率



### 2030年エネルギー使用比率 (目標)



- ・ 効率的な生産体制の確立
- ・ 省エネタイプ設備への移行 (LED、ボイラーの最新化等)



## 人々の暮らしを快適に



### 繊維製品のライフサイクルの“捨てる”に着目した新しい環境配慮型素材

心豊かな環境配慮型社会実現のために私たちができること

「ココロハーモニー®」は燃焼時のCO2を削減するポリエステル「オフコナノ®」を使用しています。

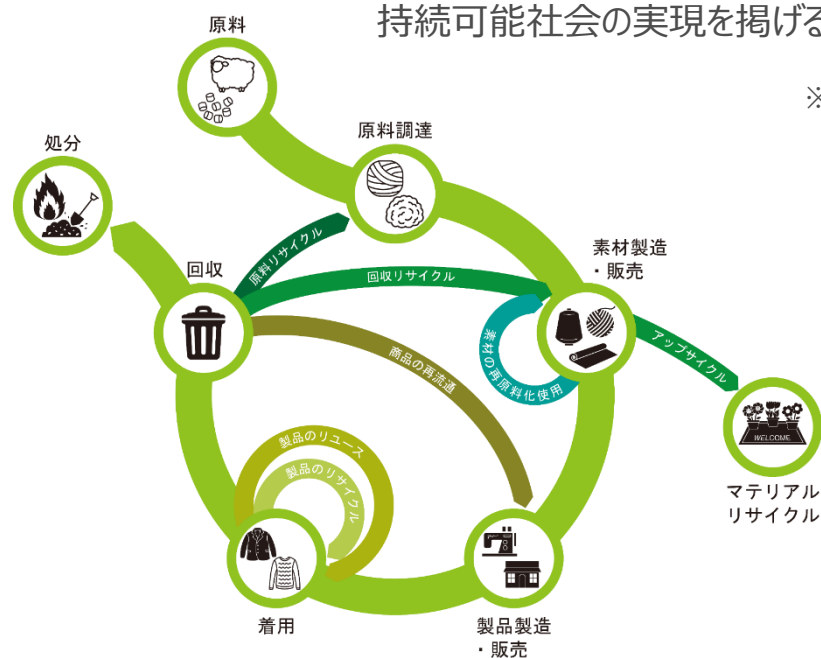
製品ライフサイクルアセスメントの観点から、廃棄衣類の環境負荷にアプローチする環境配慮型素材です。また、ウールと「オフコナノ®」の組み合わせは、持続可能社会の実現を掲げるSDGsの理念に合致します。

燃焼時 CO2 削減素材



COCOLO HARMONY®  
ココロハーモニー

※ オフコナノ®はシキボウ(株)が開発した環境配慮型ポリエステルです。



### ライフサイクルアセスメント (LCA : Life Cycle Assessment)

製品のライフサイクル全体（資源採取、原料生産、製品生産、流通・消費、廃棄・リサイクル）における環境負荷を定量的に評価する手法。LCAは、製品のライフサイクル全体での環境負荷を明らかにすることにより、より環境に配慮した製品を検討するための有用なデータを提供することができ、環境負荷をより包括的に把握する手法として注目されている。

## トア紡グループのSDGs

### 地域貢献 イベントへの参加

- ▶ 「私たちのSDGs ～繊維製品の循環をめざして～」 2022年9月2日～11日、なんばマルイ 1F イベントスペース  
⇒ **ウールエコ反毛フェルトを提供**



- ▶ 「第二回 サステナブルファッションEXPO 秋」 2022年10月18日～20日、東京ビッグサイト トークセッション  
⇒ **GREENWOOLバリューチェーンを紹介**



## トピックス

### ▶ ムサシノ製薬株式会社をグループ会社化

2023（令和5）年2月1日、トーア紡グループに新たにムサシノ製薬株式会社が加わりました。

ムサシノ製薬株式会社は、フタアミンシリーズなど知名度のあるスキンケア用品や、健康食品、化粧品等を約50年にわたり全国の薬局・薬店、ドラッグストアなど多店舗に販売しております。

当社グループにおいて今後の事業の柱と位置付けるヘルスケア事業部にとって、商品開発および販売チャネル獲得という側面から事業拡大への相乗効果が見込めると判断し、ムサシノ製薬株式会社の全株式を取得し子会社化いたしました。

今後は、これを契機に当社グループの経営基盤をより重層化することで、持続的な成長と企業価値の向上に繋がるものと考えております。

#### ムサシノ製薬株式会社

設立：1971（昭和46）年4月28日

所在地：〒188-0002 東京都西東京市緑町1-4-26

TEL：042-469-2511

FAX：042-469-2544

事業目的：医薬品、医薬部外品、工業薬品、化粧品、食品、薬用酒、衛生用具、医療用具、  
その他の製造並びに売買などに関連する諸般の事業



本資料中の業績予想、見通し及び事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。